

■ 審査講評

審査委員長 渡邊 博子（大分大学経済学部教授）

今回は、3つのテーマ（①楽しく分かりやすい学校教育、②介護に役立つアイデア・サービス、③地域資源の掘り起しと活用による地域創生・町おこし）のもと、4県 21校から 811件（926人）の応募がありました。参加された高校生、ご指導された先生方、保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

グランプリは、片木美優さん（大分県立別府翔青高等学校）の「**bathbam～湯の花バス～**」でした。これは、別府の地域資源である温泉から採取される湯の花と伝統工芸品の竹細工を組み合わせた作品です。湯の花をバスバムのような固形物にして、それをカプセル状のあまり大きくない竹細工の中に入れます。まずは、それをそのままお湯にいれ湯の花を溶かす、その後は竹細工をアクセサリーやキーホルダーにするなど自分なりのリメイクをしてもらうことを考えています。将来は、それを別府のシンボルとして日本や世界に広め、別府をアピールしたいと思っています。ありそうでなかったことを実際に形にしたこと、使ったら終わりではなく、おしゃれな二次使用も考えたことが高評価でした。

大分県教育委員会教育長賞は、村上千愛さん、近田愛海さん、佐伯風花さん（愛媛県立西条高等学校）の「**西条市市之川産輝安鉱～市之川産輝安鉱の新しい価値を創造～**」でした。西条市市之川産の輝安鉱をまず知ってもらうこと、そのためにそれを使用したストラップをおしゃれに制作、パンフレットの作成とともに、工夫したパッケージに入れて販売することも考えています。このストラップで地域活性化を目指し、文化祭などで販売しようと計画しています。同賞プレゼンターからは、課題を認識し、調査し、実際に形にしていたことやグループ全員の行動力が高く評価されました。

大分合同新聞社賞は、日浅優香さん（大分県立別府翔青高等学校）の「**多国籍レストラン～Diversity 別府～**」でした。別府に集う外国人観光客や留学生を貴重な「人材」＝地域資源としてとらえ、地域活性化のためには気軽にコミュニケーションが取れる場が必要であり、それをそれぞれの国の食事を提供するレストランとするアイデアです。同賞プレゼンターからは、美味しいものを食べることは幸せであり、それを使って地域の課題を解決したり地域を創成したりすることの発想がおもしろかったこと、クラウドファンディングなどを活用し実現させていこうとする姿勢が素晴らしいと高く評価されました。

大分大学経済学部 100周年記念事業実行委員会委員長賞は、三浦里芳さん（大分県立別府翔青高等学校）の「**これ一つ、どこでも誰もが安心**」で、熱中症の被害を減らし、高齢者を見守るためのウエストポーチです。高齢化が急速に進む中で身近な人を見守るため、社会状況や環境変化をとらえていること、データなどをしっかり集める一方で、温かくやさしい眼差しが感じられる点が評価されました。

大分大学 COC+賞は、木村天音さん、梅崎萌さん、吉田遥希さん、大浦啓人さん（福岡雙葉高等学校ほか）による「**観光客の満足度 UP 福岡市のお・も・て・な・し～ゴミ箱編～**」で、福岡訪問者が満足し、地域交流を深めるためのゴミ箱活用です。IoTなど既存の技術を用い、ゴミ箱に広告をつけることでコスト対策を考えるなど幅広い視点からの発想が評価されました。

上記の5作品をはじめ、受賞された皆さま、あらためて、おめでとうございます。審査委員会では、作品における「新規性」「独創性」「実現可能性」、そして「高校生らしさ」、つまり身の丈にあった発想でありながらも無限の可能性を秘めたものなどの点から評価させていただきました。また、入賞された作品からは、アンケートやインタビュー調査の実行、実際に現場に行くなどの「行動力」、何とかしようという「熱い思い」、どうすればこのアイデアが具体的に動くかという「事業運営力」などがひしひしと感じられました。多くの人たちに明確に適切に伝えるというプレゼンテーションは共通して素晴らしかったです。

このコンテストをきっかけに、地域や社会の問題、身近な人々の困りごとなどに気づき、それらが少しでも解決されていくことを願いつつ、次回もさまざまな観点からの多くの応募を期待しています。

大分大学経済学部 高大接続教育室
〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
TEL&FAX 097-554-8527
E-mail kodai-s@oita-u.ac.jp
URL <http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/gp/>